

# 春風秋霜 1月号

平成28年1月5日

島田市教育委員会だより  
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

## 1 新年を迎えて

新年明けましておめでとうございます。私は、教育長就任時、「信頼される教育」を第一の重点として掲げ、これまで努めてきました。また、市長には、大きな成果を残すことなく、何も無いことへの評価をお願いし、理解していただきました。

就任来、各校の生徒指導上の問題も改善し、課題になった学力問題にも着実な成果が見られました。しかし、昨年、市内の教員が懲戒免職となるという不祥事が起きてしまい、市民の信頼を大きく損ねてしまいました。ほとんどの教職員が誠心誠意努力していることは、誰もが認めることですが、一人の失敗が全体の評価につながることも事実です。

校長会には、職場環境として『笑顔・やりがい・仲間』を大切にして欲しいとお願いしました。この三点が機能している職場では、一人でできないことや難しい課題も、解決が可能になると思います。職場環境は、校長のリーダーシップだけでなく、全職員が作り上げるものですから、今年もよろしく願いいたします。

## 2 防災標語コンテストの表彰について

12月15日(火)に小中学校防災標語コンテストの表彰式があり、応募者1385人の中から、小・中学校各3人が表彰されました。この6人は、市産業祭の時に市民約800人の投票によって選ばれました。この企画に応募した子供たちのように、防災について積極的な子供が増えることを願っています。また、子供たちの参加を後押ししていただいた先生方に感謝します。

小学校の部 最優秀賞 『守ろうよ 自分の命は 一つだけ』天野由菜さん(島一小5年)

中学校の部 最優秀賞 『「遅かった」そうなる前に 備えよう』孕石日菜多さん(島一中3年)



島田市では、宮城県の校長先生を招き、防災の指導を受けている学校が何校もあります。災害を体験した人でなくては分からない話を、子供たちは切実感を持って聞いたようです。

11月27日に行われた初倉中での講演会では、「生死を分ける時に役立つように、授業・部活動・学校行事等を大切に、あきらめない気力と体力を備えておくこと」という話があり、生徒は、「亡くなった子供の分まで、一度きりの人生をしっかりと生きていけるように、全力で努力する」と決意を書き留めています。教師も子供も『明日は、我が身』という意識を持たなくてはならないと思います。

## 3 子供への関わりについて

内田校長から、毎朝、子供に手紙を書いている先生がいるという話を聞きました。その先生は、子供が登校する前に靴箱の上履きの中に小さな手紙を入れておくそうです。その結果、課題のあった子供に落ち着きが増し、クラス全体も安定してきたということです。

子供の変化が見えるまでには時間がかかります。この先生の素晴らしいところは、あきらめず手紙を書き続けたことだと思います。どんな子供にも見守っている人がいるというメッセージを伝え続けることが大事だと思います。

教育委員の学校訪問において、子供の追求する姿勢が素晴らしい授業に出会うことがあります。そういう授業を行っている教師は、子供を良く見ている先生です。協同追求においては、発表に耳を傾けながらも他の子へも目を配り、個人追求の場では、自ら子供の席に赴き、声を掛けたり、微笑みかけたりしています。

子供が見守られて、認められているという雰囲気クラスの中に作り上げたいものです。

#### 4 11月議会から

横田川議員から家庭教育学級の内容についての質問がありました。その中で、保護者の中には家庭教育学級への参加が負担になっている人もいますので、参加しやすい工夫や参加しない親に対する配慮が欲しいという要望も出されました。

各学校の家庭教育学級は、学校行事との同時開催5割や土日開催4割となっている上に、学級生の自主性を尊重した運営になっています。また、家庭教育学級欠席者へは、お便り等で情報の共有にも配慮していると思います。

私は、都合が悪くて欠席する保護者へは、これまでと同様に情報の共有をしなくてはならないと思います。しかし、参加がわずらわしいと考える保護者に対しては、参加するメリットや楽しさがより分かるような工夫をお願いします。核家族化が進み、相談する相手がいない保護者の悩みは、家庭教育学級での話し合いや同じ環境にいる保護者同士の会話が大きな支えになると思います。

#### 5 博物館無料開放について

博物館が12月から3月まで島田市民に無料開放されています。多くの子供たちにも足を運んで欲しいものです。皆さんは、明治22年から天徳寺の住職となった秋野孝道という方を知っているでしょうか。この方は、昭和5年に曹洞宗管長に就任し、昭和天皇から黙照円通禅師という称号を下賜された方です。この方の書も展示されているので、一見の価値はあると思います。この他にも分館日本家屋において、1月末まで海野光弘と交流のあった作家たちの年賀状展も行われています。

## 肘 かけ 椅子

杉山 郁夫 図書館課長

### 『大代 ジャンボ干支』

私の地元、金谷大代のジャンボ干支はみなさんご存知かと思いますが、大井川鐵道五和駅から西へ6km山奥へ入ったところにあります。人気になり設置場所が手狭になるたびに移転を余儀なくされ、2度の移転をして、現在の場所に至っています。

地元の有志により製作され、年賀状用に写真撮影する人が多いため11月から取り掛かり、2週間ほどで完成されます。2月まで見学者が訪れ、テレビや新聞で報道されることもあり、見学者は約3万人ということでした。

この干支については、有志のコミュニティー団体が製作しており、常に様々なアイデアを出し合い、地元の人たちも協力してくれるようになり、市指定文化財の河村家も合わせて見学会を開くなど、周りの人たちを取り込んできています。

今までに場所を移転するたびに、その場所にあわせた配置や大きさを再検討するなど、根本から考え直す機会が多くあったために、日々進化してきたように思います。

何事も昨年のを引き継ぐだけでなく、一度リセットして最初から考え直してみることが衰退しないで続けていける秘訣だと思います。

図案の製作者が高齢なのが気になりますが、若い後継者も多く、永く続けられると思いますので、大代のジャンボ干支が、しまだ市民遺産になれるよう願っています。